

金融リテラシーと投資信託

阿萬弘行(関西学院大学)

大森孝造(大阪経済大学)

小川一仁(関西大学)

本西泰三(関西大学)

要旨

近年、家計の金融資産による長期投資の重要性が指摘されている。家計は一般的に、資金規模や情報収集・処理能力に制約がある。リスク資産に対して長期投資を実現するためには、投資信託がそれに適した代表的な金融商品である。本稿では、家計の長期資産形成の観点から、投信の普及にとって、金融リテラシーがどのような効果をもっているかをアンケート調査によって分析した。第一に、先行研究で広く用いられる金融知識を回答者に質問することで、金利計算・分散投資・リスク等の観点から、金融リテラシーの高さを計測した。第二に、安全資産からリスク資産を含む幅広い金融商品に関して、長期投資の視点を明示する形で、どの金融商品が投資に向いているか、という家計の認識を分析した。その結果、金融リテラシーが高い人は、現金・預金と比較して、投資信託が長期投資に向いているという認識を示していた。第三に、投信の業績が変化したときの購入・売却の意思決定について分析した。金融リテラシーが高い人は、値上がりした投信を早々と売却する傾向が強く、長期資産形成とは整合しない結果となった。このほかにも、行動バイアス、投信への理解・興味、投信購入チャネルなどについても質問し、投信の長期投資資産としての認識、投信への投資行動についての多角的な分析を行った。